

11. 上津屋石田神社

八幡市上津屋里垣内の集落西北に位置する。旧上津屋村は久世郡に属し、木津川対岸の村域とは流れ橋によって結ばれている。現在の府道がもとの奈良街道である。『村誌』によると、^{いわた}石田神社はもと牛頭天王祠と称し、素盞雄尊を祭神としていた。『村誌』は石田神社境内に福泉寺跡があることも記し、明治7年の廃寺を伝える。したがって、鳥居の前面にある十三重層塔など、寺院に関する石造物も境内に所在する。

境内入口にある鳥居は寛延元年（1748）の建立で、流麗な書体で漢文を刻む。鳥居から本殿の間に2対の円柱形六角火袋石燈籠があり、寛文7年（1667）とおそらく延享年間のものであり、近世前期における境内整備が想定できる。いずれも蓮華座をもつもので、江戸時代前期の典型的な形態をとる。これらは、火袋の正面と銘文から判明する竿の正面とが合致しておらず、倒壊などを経験していることが想像される。そのため、宝珠との組み合わせもオリジナルのままかどうかは疑問が残る。

『村誌』が挙げる牛頭天王に奉獻された石燈籠は鳥居を入ってすぐ左手にあり、祭神の変更によって移設された可能性があろう。また、境内にある愛宕大権現常夜燈は、城州久世郡上津屋浜村中により宝暦元年（1751）に建てられたもので、上津屋浜村といいのは小字浜垣内に対応するのであろう。そこから移設されたものである可能性が導かれる。なお、江戸時代後期の絵図には鳥居よりさらに西側に石燈籠が一対建てられている状況が描かれているが、現状では存在していない。

手水鉢と並んで井戸枠があるが、そこにも銘があり、文化9年（1812）の年号と、願主の名を刻んでいる。

（菱田哲郎）

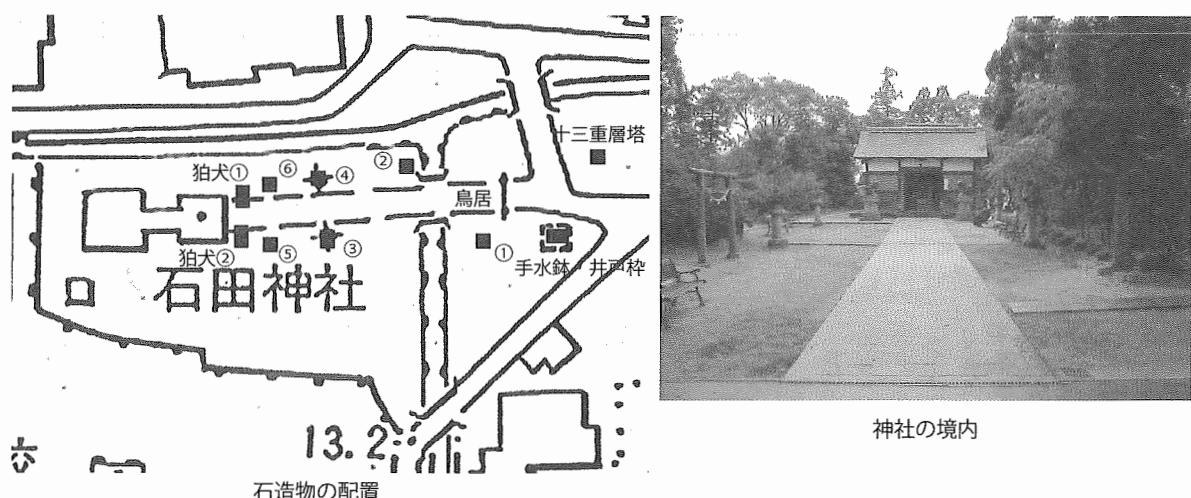
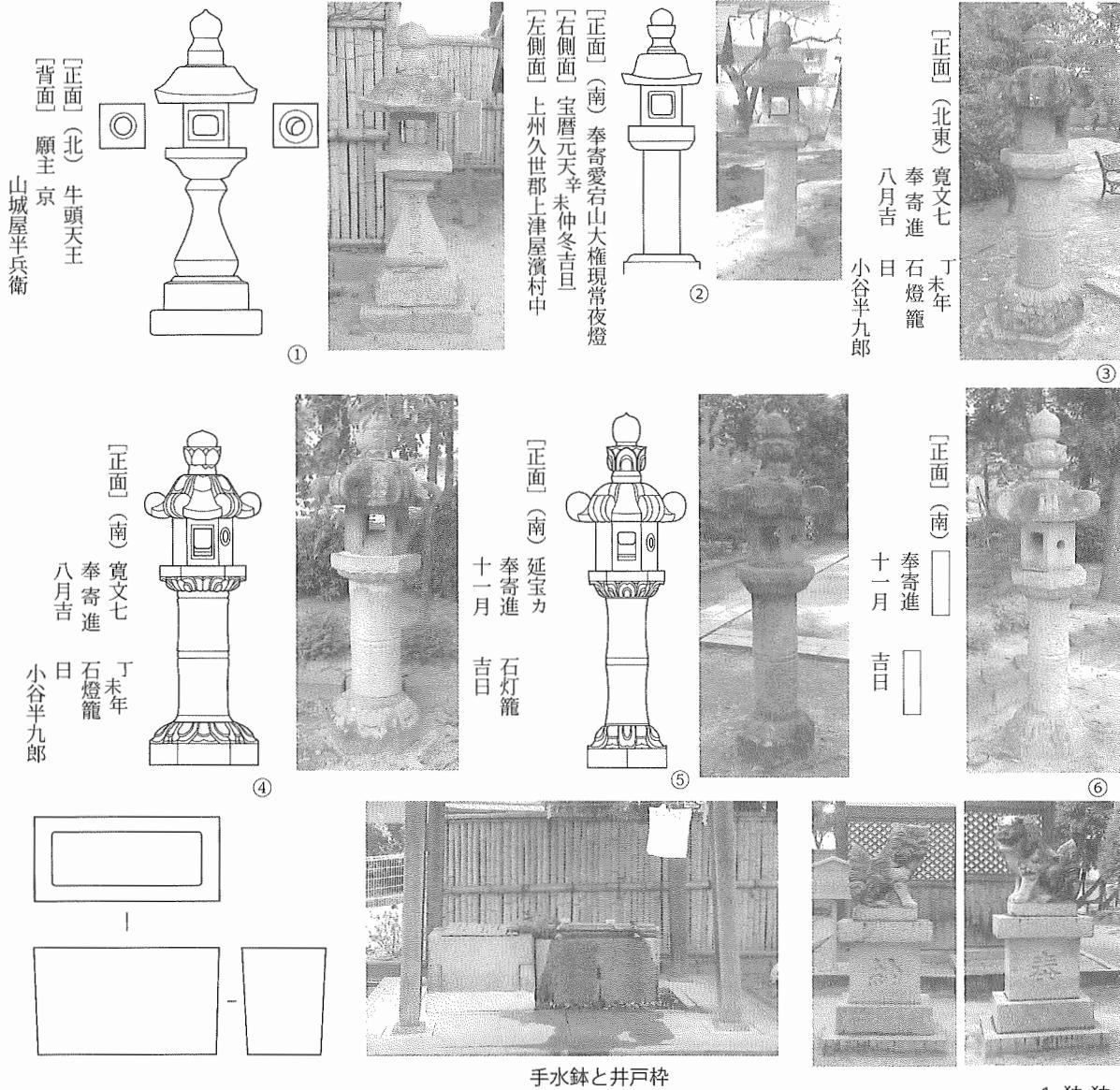


図 28 上津屋石田神社（1）



手水鉢と井戸枠

狛犬1 [基礎正面] 奉
狛犬2 [基礎正面] 納
1・2 [基礎背面] 昭和十二年三月
松田正雄 大阪八軒屋
石匠川島三平



十三重層塔

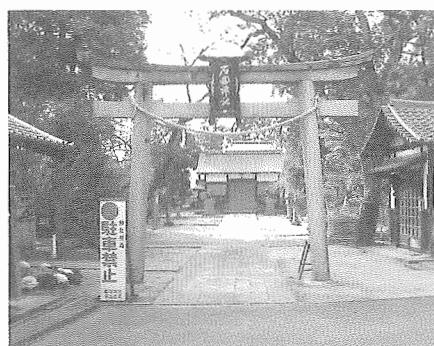


図29 上津屋石田神社(2)